

1・令和元年度 診療所利用状況集計結果

年度	総患者数	土曜日平均	祝・日曜日平均	救急搬入数
令和元年度	4,012人	10人	44人	41人
平成30年度	4,026人	11人	48人	40人

表1：月別診療所利用状況

月	利用状況
4月	<ul style="list-style-type: none"> 内科は、上気道炎の患者が多くみられた。 外科は、屋外での怪我が増え、スポーツ外傷による捻挫や骨折が目立った。 小児科は、上気道炎の患児が多く、水痘や伝染性紅班もみられた。 <u>インフルエンザ感染症患者は、総数4人</u>（大人A型1人・B型1人・小児A型1人）で、溶連菌感染症は8人であった。
5月	<ul style="list-style-type: none"> 内科は、上気道炎・咽頭炎・気管支炎と消化器症状を訴える患者が目立った。 外科は、擦過傷や打撲や骨折など屋外での怪我が多くみられた。 小児科は、上気道炎・咽頭炎・気管支炎と消化器症状の患児が多かった。溶連菌感染症は5人、水痘は2人であった。 <u>インフルエンザ感染症は、総数7人</u>（大人B型2人・小児B型5人）であった。 <u>名水マラソン関係では、救急搬入6人、一般受診7人の総数13人</u>であった。うち、熱中症と脱水症は11人で、他は転倒による打撲、日焼けによる熱傷であった。
6月	<ul style="list-style-type: none"> 内科は、上気道炎・気管支炎が目立った。溶連菌感染症は2人であった。 外科は、高齢者の転倒による擦過傷や、打撲・捻挫が多くみられた。 小児科は、上気道炎・咽頭炎が目立った。手足口病は23人と多く、溶連菌感染症は2人、<u>インフルエンザ感染症は総数2人</u>（小児A型1人・B型1人）であった。
7月	<ul style="list-style-type: none"> 内科は、上気道炎などの呼吸器疾患と胃腸炎が多くみられ、熱中症による脱水・発熱も目立った。 外科は、虫刺症が24人で、うち蜂刺傷が16人と多くみられた。また、草刈り機やチェーンソーでの切創、花火での火傷など屋外での怪我が目立った。 小児科は、上気道炎・気管支炎の他に手足口病が17人と多くみられた。他に、アデノウイルスやヘルパンギーナ、伝染性紅班がみられた。
8月	<ul style="list-style-type: none"> 内科は、熱中症による脱水・発熱が多く、上気道炎や胃腸炎も目立った。 外科は、キャンプや屋外でのスポーツでの怪我や、花火での火傷がみられた。 小児科は、上気道炎が目立った。手足口病は6人、ヘルパンギーナがみられた。
9月	<ul style="list-style-type: none"> 内科は、感冒・上気道炎が増え、熱中症・脱水症は減少した。 外科は、切創・擦過傷やスポーツなどでの転倒、打撲・捻挫が多くみられた。 小児科は、手足口病やヘルパンギーナなどの感染症が目立った。
10月	<ul style="list-style-type: none"> 内科は、感冒・上気道炎・気管支炎が多くみられた。 外科は、粉瘤や皮下腫瘍・爪下血腫等で、数日前あるいは1か月前より症状を自覚していた事例が目立った。また、高齢者の転倒による打撲や切創・骨折があった。 小児科は、気管支炎や胃腸炎が多かった。感染症疾患は、RS感染症、ヘルパンギーナ、伝染性紅班、溶連菌感染症があった。 <u>インフルエンザ感染症は、1人</u>（大人A型）であった。

月	利用状況
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・内科は、感冒・上気道炎が多くみられた。 ・外科は、高齢者の転倒による外傷が目立った。また、スポーツでの捻挫や雪囲い作業中の打撲や外傷がみられた。 ・小児科は、急性上気道炎・急性咽頭炎・喘息が目立った。インフルエンザ感染症が始め、他には、溶連菌感染症・伝染性紅班がみられた。 ・インフルエンザ感染症は、総数10人（小児A型7人・大人A型3人）であった。
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・内科は、インフルエンザ感染症よりも感冒・上気道炎・胃腸炎が多くみられた。また、精神疾患の受診や、会食による胃腸炎もあった。 ・外科は、挫創・関節痛・打撲が多くみられた。他には、道端で転倒していた認知症徘徊高齢者の救急搬入（目立った外傷なく、帰宅した）があった。 ・小児科は、インフルエンザ感染症が8人と増え始めた。他に、溶連菌感染症、水痘がみられた。 ・インフルエンザ感染症は総数35人（すべてA型・小児15人、大人20人）であった。
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・内科は、インフルエンザ感染症が増え、さらに上気道炎や胃腸炎も目立った。他に、入浴時意識消失状態で発見、救急搬入された事例（80代女性）があった。蘇生を施行したが死亡、検死が行われた。（19時4分搬入、0時35分帰宅） ・外科は、切創や擦過傷の外傷や骨折がみられた。 ・小児科は、胃腸炎が多くみられた。他に、水痘・手足口病・溶連菌感染症がみられた。 ・インフルエンザ感染症は2週目から急増し、流行時対応に切り替えた。総数は163人（前年度284人）（すべてA型・小児科76人・内科87人）であった。
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・内科は、上気道炎と胃腸炎が多くみられた。他に、高齢者の便秘が目立った。 ・外科は、擦過傷や打撲が多くみられた。 ・小児科は、上気道炎や胃腸炎が多くみられた。他に、溶連菌感染症がみられた。 ・インフルエンザ感染症は総数27人（すべてA型・小児14人、大人13人）であった。 ・新型コロナウイルス感染症に関連する問い合わせや受診がみられるようになった。
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・内科は、上気道炎、気管支炎、胃腸炎が多くみられた。 ・外科は、擦過傷、打撲、捻挫が目立った。 ・小児科は、上気道炎、胃腸炎が目立った。溶連菌感染症、手足口病、水痘がみられた。 ・インフルエンザ感染症は減少した。日本医師会より新型コロナウイルス感染症感染拡大防止についての日本医師会の提言より、インフルエンザ検査をせずに、症状などから診断することとなった。

2. 新型コロナウイルス感染症に関連する受診状況と対応について

1) 発熱を主訴とする患者の受診状況

	4月	5月	6月	7月	8月
発熱患者数（人）	92	193	83	198	239
（受診者総数に占める割合）	(29.3%)	(15.5%)	(14.5%)	(19.2%)	(25.5%)

2) 発熱を主訴とする患者の対応について

・・・資料6参照

問診票（新型コロナウイルス感染症疑い）

受診日

フリガナ

氏名 _____ 年齢 _____ 歳 男 ・ 女

診療を安全・円滑に行えるように下記の事項についてご記入ください。

- 1) **本人または家族が** 県外から来県されましたか、または、県外の方との接触がありましたか。 (はい ・ いいえ)
都道府県名を教えてください。 ()
- 2) **本人または家族が** 2週間以内に県外に出掛けられましたか。 (はい ・ いいえ)
都道府県名を教えてください。 ()
いつですか? (月 日 ~ 月 日)
どのような目的でしたか? ()
- 3) **本人または家族が** 新型コロナウイルス感染症患者との接触がありましたか?
(はい ・ いいえ)
接触があったのはいつですか? (月 日)
- 4) **本人または家族が** 2週間以内に、不特定多数で3密になりやすい場所に行きましたか。例: スナック、バー、カラオケ、パチンコ等 (はい ・ いいえ)
- 5) **帰国者・接触者相談総合センターに連絡されましたか** (はい ・ いいえ)
- 6) 現在みられる症状に ○ をつけてください。
37.5℃以上の発熱 強い体のだるさ (倦怠感) 息苦しさ 咳 痰
のどの痛み 鼻水 嗅覚・味覚の異常 頭痛
- 7) 症状がみられてから4日以上経過していますか? (はい ・ いいえ)
症状がみられてから2日以上経過していますか? (はい ・ いいえ)
- 8) 解熱剤等を服用していますか。 (はい ・ いいえ)
いつ解熱剤を服用しましたか? ()
薬剤名を教えてください。 ()
- 9) 次の病気になったことがありますか? ○ をつけてください。
糖尿病 ・ 高血圧 ・ 心臓病 (心不全など) ・ 腎臓の病気 (透析中など)
呼吸器の病気 (慢性の呼吸器疾患・喘息など) ・ がん (抗がん剤治療中など)
- 10) 周りにインフルエンザ・溶連菌等の感染症にかかった人はいますか?
(はい ・ いいえ)

1. 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた発熱患者への対応マニュアル改訂版 ver.9

2020.08.28 改訂

- 8/26 福井県に『新型コロナウイルス感染拡大警報』が発令された。人口 10 万人当たりの感染者数が 2,865 人となり、県外への往来歴のない感染者数の増加、カラオケを中心としたクラスターの発生など市中感染の危険性を想定し、新型コロナウイルス感染症が疑われる患者は問診票をもとに、担当医師の判断に基づき、PCR 検査を勧める。
- 発熱のある患者（熱中症疑い患者含む）はすべて感染症専用棟で診察する。小児科・内科患者が同時に来所した場合、看護師が症状・年齢から優先順位を判断する。
- 全科において、原則患者の付き添いを禁止する。ただし、小児や要介護等の患者については 1 名までは許可する。
- 全科において、患者および付き添い者の検温を実施する。

